

小川国夫と聖書

小川国夫は、8歳の時に母親に連れられて教会へ行き、9歳の時に参加した土曜学校で、初めて旧約聖書の世界や聖書物語に触れました。その後、旧制静岡高等学校（現在の静岡大学）在学中にカトリックの洗礼を受け、20歳のころ小説を書き始めました。

小川国夫は、『逸民』（昭和61年版）の後記で、書くべき作品として「三筋」の流れを記しています。その第一の筋として、「聖書の世界を拡大したり、変形したりした物語の流れにしよう」を挙げています。その筋に沿った最初の作品は「枯木」（『アポロンの島』収録）でした。以後「枯木」は、小川文学の象徴的な作品のひとつとなっています。

本展示会では、小川に大きな影響を与えたキリスト教との関わりについて、幼少期における聖書との出会いから学生時代の藤枝カトリック教会での活動、作家かつ信者として捉えたキリスト教に対する思考、聖書に関連した作品などを紹介します。



『枯木』直筆原稿



私家版『アポロンの島』



『或る聖書』



『血と幻』



小川国夫画『海からの光』



藤枝カトリック教会 教会月報第一号
(1951年3月18日発行)

小川 国夫 おがわ くにお (1927-2008)

静岡県藤枝市生まれの作家。1950年東京大学文学部入学。大学在学中にフランスへ私費留学。パリのソルボンヌ大学などに籍を置き、この間、スクーターで地中海沿岸諸国を旅した。この体験がのちの小川作品の一つの素地となった。著書に『アポロンの島』、『或る聖書』、『私の聖書』、『逸民』、『ヨレハ記』などがある。

関連イベント

□ ミュージアムコンサート □

アヴェ・マリアや聖歌などキリスト教会で

斉唱される美しい調べをお楽しみください。

とき／平成29年4月8日（土）

午後2時～2時45分

ところ／文学館講座学習室

出演／静岡室内合唱団

定員／70名（当日先着順）

参加料／当日の入館券として大人200円、中学生以下無料



□ ワークショップ □

聖書にちなみ葡萄のアクセサリーを作ってみましょう。

とき／平成29年4月15日（土）

午前の部：午前10時30分～正午

午後の部：午後2時～3時30分

ところ／郷土博物館講座視聴覚室

講師／渡辺詩歌さん（日本グルーデコ協会認定講師）

定員／各回20名（予約順）

参加料／大人1,000円、中学生以下800円



3/28 (火) より
TEL・FAX・E-mailで受付